

第1 平成19年の気象概況

1 平成19年の気象の特徴

(1) 概況

前年（平成18年）12月から2月にかけては、全般に寒気の影響を受けにくく、冬型の気圧配置は長続きしなかった。このため、気温が平年よりかなり高くなり、広島では前年（平成18年）12月から2月の3か月間の平均気温が7.4℃となり、3か月間の平均気温の高い値の第1位（従来の第1位は、1998年の7.3℃）となった。呉でも同様に、3か月間の平均気温が8.1℃となり、3か月間の平均気温の高い値の第1位（従来の第1位は、1993年の7.8℃）となった。また、福山でも同様に、3か月間の平均気温が6.6℃となり、3か月間の平均気温の高い値の第1位（従来の第1位は、1949年の6.5℃）となった。

3月は上旬の前半と下旬は、高気圧に覆われて晴れて暖かくなったが、上旬の後半から中旬にかけては、低気圧の通過後冬型の気圧配置となることが多く、低温となり気温の変動が大きかった。

4月は、はじめに冬型の気圧配置となったことから、雪の降ったところがあった。その後、天気は数日の周期で変化したが、天気の崩れは小さく、終わり頃は移動性高気圧に覆われて晴れる日が多かった。このため、降水量は各地で平年より少ないか、かなり少なく経過した。

5月は、数日の周期で天気に変化し、寒気を伴った低気圧がたびたび通過したため、雷雨や突風などの荒れた天気となる日があった。

6月から7月にかけては、太平洋高気圧の日本付近への張り出しは平年より弱かった。このため、6月は移動性高気圧に覆われる日が多く、一部の地方を除いて高温・少雨となり、各地で梅雨入りが遅くなった。中国地方でも14日ごろにかなり遅い梅雨入り（平年6月6日ごろ）となった。

7月は、梅雨前線が本州付近に停滞することが多く、西日本で低温・多雨・寡照となり、各地で梅雨明けが遅れた。中国地方でも23日ごろに遅い梅雨明け（平年7月20日ごろ）となった。また、九州の南海上へ進んできた台風第4号は、14日昼頃に鹿児島県の大隈半島に上陸し、その後15日にかけて四国沖から東海沖へ進んだ。このため、広島県では14日20時頃から15日08時頃にかけて風速25m/s以上の暴風域に入り、14日23時頃に最接近した。この影響で、14日昼前、呉市で強風にあおられた女性が転倒し、右足を骨折する人的被害などが発生した。

8月は、太平洋高気圧が強まり、台風第5号が太平洋高気圧の縁をまわるように日本の南海上を北西進し、2日18時前に宮崎県日向市付近に上陸した。その後、勢力を弱めながら宮崎県と大分県を縦断したのち周防灘を通過し、3日01時過ぎに山口県宇部市付近に再上陸した。その後、山口県を縦断して4日明け方に山陰沖に抜けた。このため、広島県では3日00時過ぎから02時頃にかけて最接近し、この頃一時的に広島県は暴風域に入った。この影響で、2日15時20分頃、三原市で強風により郵便集配車が約1m下に転落・横転し、男性1名が腹部を打撲する人的被害などが発生した。また、太平洋高気圧に覆われ晴れて気温の高い日が続いた。特に、8月中旬は顕著な高温となり、日最高気温が35℃を超える猛暑日となる日が多く、府中では17日に日最高気温が観測史上第1位となる38.5℃を観測（従来の第1位は、1994年8月5日の38.0℃）した。

秋の平均気温は全国で高かった。広島県でも9月の平均気温は平年よりかなり高く経過し、10月の平均気温は平年より高いか、かなり高かった。特に、9月6日から7日にかけて、台風第9号が関東地方南部に上陸して東北地方を北上した影響で、6日の朝から昼過ぎにかけて広島県南部ではフェーン現象となり、広島では日最高気温が9月の第1位となる36.9℃（従来の第1位は、1914年9月9日の36.1℃）を観測した他、本郷、廿日市津田、竹原、大竹、久比でも9月の第1位となる日最高気温を観測した。

11月の前半は高温、後半は低温と気温の変動が大きかった。広島では9月から11月の3か月間の平均気温が19.9℃となり、3か月間の平均気温の高い値の第1位（従来の第1位は、1998年の19.7℃）となった。呉でも同様に、3か月間の平均気温が20.3℃となり、3か月間の平均気温の高い値の第1位（従来の第1位は、1961年の20.0℃）となった。また、福山でも同様に、3か月間の平均気温が19.2℃となり、3か月間の平均気温の高い値の第1位（従来の第1位は、1961年の19.0℃）となった。また、広島では9月から11月の3か月間の降水量が128.0mmとなり、3か月間の降水量の少ない値の第1位（従来の第1位は、1936年の149.8mm）となった。呉でも同様に、3か月間の降水量が92.5mmとなり、3か月間の降水量の少ない値の第

1位（従来の第1位は、1904年の119.0mm）となった。

12月は10日前後の周期で低気圧が本州付近を通過した他、気圧の谷が頻繁に日本海を通過した。このため、月降水量が平年よりかなり多かった。年末の30日から31日にかけて、気圧の谷が東に抜けた後、強い冬型の気圧配置となった影響で、山地を中心に大雪となり、最深積雪は31日に高野で79cm、八幡で54cm、大朝で37cmを観測した。

(2) 平均気温

年平均気温は、三入で平年並となった他は、平年より高いか、かなり高かった。特に、府中では8月17日に日最高気温が観測史上第1位となる38.5℃（従来の第1位は、1994年8月5日の38.0℃）を観測した。また、府中の年平均気温が15.7℃となり、年平均気温の高い値の第1位（従来の第1位は、1998年の15.7℃）となった。

(3) 降水量

年降水量は、高野・八幡・大朝で平年並となった他は、平年より少ないか、かなり少なかった。

(4) 日照時間

年間の日照時間は、世羅・福山・廿日市津田・大竹で平年並となった他は、平年より多いか、かなり多かった。特に、加計で5月の月間日照時間が観測史上第1位となる221.0時間（従来の第1位は、1994年7月の213.3時間）を観測した。

2 平成19年の各月の気象概況

(1月) 上旬の6日から7日にかけて、強い寒気が入り北部中心に大雪。中旬は高気圧に覆われ、比較的温暖な日が続く。下旬は天気ぐずつく。

上旬 6日から7日にかけて強い寒気が入り、冬型の気圧配置が強まった。このため北部を中心に大雪となり、7日の最深積雪は高野29cm、八幡23cm、大朝8cm、広島4cmを観測した。その他の日は高気圧に覆われる日もあったが、寒気や気圧の谷の影響でぐずついた天気となった。

中旬 16日後半から17日前半にかけ、気圧の谷の影響で雨となった。その他の日は高気圧に覆われて比較的穏やかな天気となった。

下旬 25日に高気圧に覆われて晴れた他は、気圧の谷や寒気の影響でぐずついた天気となった。特に旬の後半は、冬型の気圧配置が強まった時があり、北部を中心に一時雪が降った。

月平均気温は、庄原、三入、世羅で平年並、その他は平年より高かった。

月降水量は、世羅で平年より多く、東城・上下・福山・因島で平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。

(2月) 春の訪れ、9日にウメ開花。14日に中国地方で春一番。下旬は天気が周期変化。

上旬 1日から2日にかけて強い寒気が入り、冬型の気圧配置が強まったため、北部を中心に大雪となった。1日から2日までの積雪差合計は、高野43cm、八幡36cm、大朝25cmを観測した。3日から7日にかけては高気圧に覆われて概ね晴の天気となったが、旬の終わりは気圧の谷などの影響でぐずついた天気となった。

中旬 天気は周期的に変化した。11日、14日、17日から18日にかけては低気圧や気圧の谷の影響で雨となった。特に14日は低気圧が発達しながら日本海を東北東進し、中国地方では「春一番」が吹いた。その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れの天気となった。

下旬 天気は周期的に変化した。22日後半から23日前半、27日は気圧の谷の影響で一時雨が降った。その他の日は、高気圧に覆われて概ね晴れの天気となった。

月平均気温は、各地で平年よりかなり高かった。

月降水量は、八幡・王泊・加計で平年より少なく、その他は平年並か、平年より多かった。

(3月) 上旬の後半から中旬にかけて、冬の寒さに逆戻り。下旬は春の訪れ、22日にソメイヨシノ開花と

26日に黄砂が飛来。

上旬 1日から2日にかけては高気圧に覆われ穏やかな天気となった他は、気圧の谷や低気圧の影響でぐずついた天気となった。特に中頃は冬型の気圧配置となり、北部を中心に雪や雨が降った。7日高野 14cm、八幡 16cm、8日高野 8cm、八幡 18cm、大朝 9cmの降雪を観測した。

中旬 前半は前線や気圧の谷の影響でぐずついた天気となったが、大きな崩れはなかった。また、後半は高気圧に覆われる日が多かったが、寒気や気圧の谷の影響で一時的に雲が広がった。

下旬 天気は周期的に変化した。特に、24日から25日、27日、30日から31日は前線や気圧の谷の影響でぐずついた天気となった。その他の日は、高気圧に覆われ概ね晴れの天気となった。

月平均気温は、庄原・三入で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。

月降水量は、高野・廿日市津田・広島で平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。

(4月) 上旬の前半、天気ぐずつく。中旬の天気は周期変化。下旬の終わり頃は夏日。

上旬 前半は気圧の谷や寒気の影響でぐずついた天気となった。特に、4日は気圧の谷と強い寒気の影響で、北部を中心に10mm前後の降水となった他、県内の所々で一時みぞれとなった。後半は高気圧に覆われて概ね晴れた。

中旬 前半は高気圧に覆われて晴れの日が多くなったが、寒冷前線の通過により雨の降った日もあった。後半は短い周期で天気に変化した。

下旬 前半は短い周期で天気に変化した。後半は高気圧に覆われて概ね晴れの日が続き、旬の終わり頃は夏日(日最高気温25℃以上)となった。

月平均気温は、府中で平年より高く、高野・庄原・三入・広島で平年より低く、その他は平年並であった。

月降水量は、府中・福山・因島・大竹・呉・倉橋・久比で平年よりかなり少なく、その他は平年より少なかった。

(5月) 上旬の8日から9日にかけて、県内の一部で真夏日。

上旬 天気は周期的に変化した。1日は日本海低気圧の影響で、県内で10~25mmの雨となった。6日は低気圧が発達しながら四国南岸を北東進した影響で、内黒山で56mm、大竹で55mm、広島で52mm、廿日市津田で49mmの雨を観測した他、県内で15~35mmの雨となった。10日は寒冷前線が通過した影響で、八幡で34mm、内黒山で30mmの雨を観測した他、県内で5~20mmの雨となった。また、8日から9日にかけて南海上に中心を持つ高気圧に覆われた影響で、県内の一部で真夏日(日最高気温30℃以上)となった。

中旬 前半は高気圧に覆われて概ね晴れて夏日となる日があった。後半は気圧の谷や上空の寒気の影響を受けて変わりやすい天気となった。特に18日は、上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で大気の状態が不安定となり、夕方から夜のはじめ頃にかけて県内の所々で雷雨となった。

下旬 中頃と終わり頃に低気圧や気圧の谷の影響でまとまった雨となった。25日は、前線を伴った低気圧が山陰沖を通過した影響で、高野・君田で68mmの雨を観測した他、県内で30~60mmの雨となった。29日から30日にかけては、寒気を伴った気圧の谷の通過により、大気の状態が不安定となり、県内の所々で雷を伴った短時間強雨となった。その他の日は高気圧に覆われて概ね晴れて真夏日となった日もあった。また、26日から27日にかけて黄砂を観測した。

月平均気温は、高野・三次・庄原・大朝・加計・三入・世羅・東広島・廿日市津田で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。

月降水量は、高野・大朝・油木・廿日市津田・広島・大竹・呉・八幡・上下・志和・河内で平年より多く、その他は平年並であった。

(6月) 14日ごろ、中国地方が梅雨入り。

上旬 気圧の谷や寒気の影響で曇りの日が多く、雨となった日もあった。8日から9日にかけて、寒気を伴った気圧の谷が通過した影響で、県内の一部で雷を伴った短時間強雨を観測し、因島では8日23時20分から9日00時20分の1時間に35mmの激しい雨を観測した。また、8日13時30分頃、神石高原町の

一部で降雹（ひょう）があった。

中 旬 はじめは高気圧に覆われて概ね晴れた。中頃は四国の南海上の低気圧と梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多かった。14日は四国の南海上の低気圧と梅雨前線の影響を受けて、県内で5~20mmの雨となった。このため、中国地方は14日ごろに梅雨入り（平年6月6日ごろ）した。終わり頃は上空の気圧の谷や南から湿った空気が流れ込んだ影響で変わりやすい天気となった。

下 旬 梅雨前線が南北に変動した影響で曇りや雨の日が多かった。22日は日本海に停滞していた梅雨前線がゆっくり南下した影響で、高野で76mm、八幡で72mm、君田で71mmの雨を観測した他、県内で10~60mmの雨となった。24日は梅雨前線が中国地方に停滞した影響で、君田で56mm、庄原で48mmの雨を観測した他、県内で10~45mmの雨となった。中頃は高気圧に覆われて概ね晴れて真夏日となる所が多かった。

月平均気温は、三入で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。

月降水量は、庄原・油木で平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。

(7月) 上旬の前半、梅雨前線の活動が活発化し大雨、寡照。14日から15日にかけて、台風第4号が四国の南岸を東北東進。23日ごろ、中国地方が梅雨明け。

上 旬 梅雨前線が西日本付近に停滞した影響で曇りや雨の日が多かった。このため、日照時間は平年に比べて少なく経過した。前半は、梅雨前線が中国地方に停滞して活動が活発化したため、県内の一部では雷を伴った大雨となった日もあった。特に、2日から3日の朝にかけては、八幡で107mm、大朝で98mm、因島で93mm、美土里90mm、久比で87mmの雨を観測した他、県内で30~80mmの雨となった。

中 旬 西日本に停滞する梅雨前線と台風第4号の影響を受けて、曇りや雨の日が多かった。

14日から15日にかけて、台風第4号が九州の南部から四国の南岸を通過した影響で、呉で14日20時46分に25.8m/s（北北東）、福山で14日20時12分に20.1m/s（東北東）、広島で15日11時07分に21.4m/s（北北西）の最大瞬間風速を観測した。20日は、日本海の低気圧からのびる梅雨前線が中国地方を南下した影響で、県南部の島しょ部を中心に夕方から夜のはじめ頃にかけて雷を伴った短時間強雨となり、久比で17時50分から18時50分の1時間に50mm、倉橋で17時00分から18時00分の1時間に45mmの雨を観測した。

下 旬 初めは梅雨前線の影響を受けて曇りや雨となったが、次第に梅雨前線の活動が弱まり高気圧に覆われ概ね晴れたため、中国地方は23日ごろに平年より3日遅く（平年7月20日ごろ）、昨年より3日早く（昨年7月26日ごろ）梅雨明けしたと見られる。梅雨明け後は高気圧に覆われることが多く、概ね晴れて猛暑日（日最高気温35℃以上）となる日もあった。

月平均気温は、油木・府中・廿日市津田・大竹で平年並、その他は平年より低かった。

月降水量は、因島で平年よりかなり多く、油木・世羅・府中・東広島・福山・竹原・大竹・呉・久比・倉橋で平年より多く、その他は平年並であった。

(8月) 2日から3日にかけて、台風第5号の影響を受ける。中旬から下旬にかけて、残暑の厳しい日が続く。

上 旬 2日から3日にかけては、台風第5号が九州東部に上陸して中国地方西部から日本海に進んだ影響で、呉で2日19時24分に30.5m/s（北東）、広島で3日05時33分に25.0m/s（南南東）、福山で2日13時00分に19.2m/s（東）の最大瞬間風速を観測した。また、この影響で県西部を中心に大雨となり、2日から3日にかけての降り始めから降水量は八幡で158mm、内黒山で113mm、廿日市津田で89mm、佐伯湯来で85mmを観測した。6日は、高気圧に覆われるが暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が不安定となった影響で、県南西部の一部では明け方から朝にかけて雷を伴った激しい雨が降り、廿日市津田で05時10分から06時10分の1時間に40mmの雨を観測した。その他の日は高気圧に覆われることが多く概ね晴れて真夏日となった。

中 旬 高気圧に覆われて概ね晴れて、日最高気温が35℃を超える猛暑日となる日が多かった。特に、府中では17日に日最高気温が観測史上第1位となる38.5℃を観測（従来の第1位は、1994年8月5日の38.0℃）した。また、廿日市津田では17日に日最高気温が8月の第1位となる35.7℃（従

来の第1位は、2001年8月2日の35.2℃)を観測した。19日は、上空の寒気と強い日射の影響で大気の状態が不安定となり、県内の一部で雷を伴った激しい雨が降り、三入で17時30分から18時30分の1時間に33mm、都志見で15時30分から16時30分の1時間に31mmの雨を観測した。

下旬 24日から26日にかけては高気圧に覆われて概ね晴れたが、その他の日は前線や南からの湿った空気が流れ込んだ影響で、雲が広がり雨や雷雨となる日があった。

月平均気温は、三入・竹原で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。

月降水量は、高野・庄原・三入・世羅・八幡・内黒山・河内で平年より多く、大竹・久比で平年より少なく、その他は平年並であった。

(9月) 6日、台風第9号が関東地方南部に上陸、山陽ではフェーン現象。16日、台風第11号が九州の西海上を北上。下旬は残暑が和らぐ。広島・呉・福山で、月平均気温の高い値の第1位と観測した。

上旬 6日から7日にかけて、台風第9号が関東地方南部に上陸して東北地方を北上した影響で、6日の朝から昼過ぎにかけて広島県南部ではフェーン現象となり、広島では日最高気温が9月の第1位となる36.9℃(従来の第1位は、1914年9月9日の36.1℃)を観測した他、本郷・廿日市津田・竹原・大竹・久比でも9月の第1位となる日最高気温を観測した。その他の日は、低気圧や気圧の谷及び南から湿った空気が流れ込んだ影響で、雲が広がり一時雨や雷雨となる日があった。

中旬 中頃は台風や低気圧の影響を受けて曇りや雨の日が多かった。16日は、九州西海上を台風第11号が北上した影響で、県南部を中心にまとまった雨となり、因島で59mm、佐伯湯来で57mm、廿日市津田で52mmの雨を観測した。また、17日は台風第11号から変わった低気圧からのびる前線が次第に南下した影響で、備北を中心にまとまった雨となり、君田で55mm、三入で52mmの雨を観測した。その他の日は、高気圧に覆われて概ね晴れて残暑の厳しい日となった。

下旬 はじめと中頃には、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、その他の日は強い日射の影響や寒気流入により、大気の状態が不安定となったり、気圧の谷や前線の影響を受けて、曇りや雨となる日が多かった。特に、24日は気圧の谷が通過した影響で、高野・道後山・庄原・八幡・福山では35mmを超える雨を観測した。

月平均気温は、平年よりかなり高かった。

月降水量は、庄原で平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。

(10月) 上旬の天気は短い周期で変化。中旬から秋深まる。下旬の前半はさわやかな天気、後半は気圧の谷や寒気の影響を受ける。

上旬 天気は短い周期で変化した。7日夜遅くから8日朝にかけて、前線が次第に南下して中国地方に停滞した影響で北部を中心にまとまった雨となり、八幡で69mm、君田で58mm、高野で54mm、大朝で51mmの雨を観測した他、北部では30mmを超える雨となった。

中旬 周期的に気圧の谷の影響を受けたが、崩れの程度は小さく雲が広がる程度であった。このため降水量はかなり少なく経過した。その他の日も、高気圧に覆われたが、寒気の影響を受けることが多く雲が広がりやすかった。

下旬 前半は、高気圧に覆われて晴れの日が続いた。後半は、気圧の谷や寒気の影響を受けて曇りや雨となる日が多かった。26日は気圧の谷の影響で雷を伴った雨となり、君田で58mm、高野で48mm、道後山で37mmの雨を観測した他、県内で5~30mmの雨となった。

月平均気温は、三入で平年より高い、その他は平年よりかなり高かった。

月降水量は、高野・三次・庄原・大朝・八幡で平年並、その他は平年より少ないか、かなり少なかった。

(11月) 上旬から中旬にかけての天気は周期的に変化。18日、イチョウ黄葉。24日、イロハカエデ紅葉。28日、イチョウ落葉。

上旬 天気は周期的に変化した。1日と5日から6日にかけては、気圧の谷の影響で雨となった。特に5日から6日にかけては、県内で5~25mmのまとまった雨となった。その他の日は高気圧に覆われ

て概ね晴れた。

中 旬 天気は周期的に変化した。気圧の谷が通過した後冬型の気圧配置となり、曇りや雨となる日があった。特に18日は、一時的に強い冬型の気圧配置となり、北部で一時雪となった。

下 旬 前半は、はじめ冬型の気圧配置となった影響で曇りや雨となったが、その後は高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いた。後半は、気圧の谷や寒気の影響を受けて曇りや雨となる日があった。

月平均気温は、府中・大竹・呉で平年より高く、三入で平年より低く、その他は平年並であった。

月降水量は、各地で平年より少ないか、かなり少なかった。

(12月) 6日、初氷。15日、冬型の気圧配置となり八幡で8cmの最深積雪を観測。30日、初雪・初冠雪(極楽寺山)を観測。

上 旬 天気は周期的に変化した。1日は冬型の気圧配置となった影響で、北部を中心に雨となり、八幡では23mmの雨を観測した。3日は日本海の低気圧からのびる寒冷前線が通過した後、冬型の気圧配置となった影響で、県内でまとまった雨となり、八幡で41mm、内黒山で38mmの雨を観測した他、県内で5~30mmの雨となった。また、7日は気圧の谷や寒気の影響で、北部を中心に雨となり、八幡では25mmの雨を観測した。

中 旬 はじめは、気圧の谷の影響でぐずついた天気となった。中頃は、冬型の気圧配置となった影響で曇りや雨となり、北部では寒気の影響を受けて、所々で雪となる日があった。特に15日は、八幡では8cmの最深積雪を観測した。終わり頃は、高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いた。

下 旬 はじめは、気圧の谷の影響を受けた。特に21日から22日にかけては、低気圧が西日本の南海上を通過した影響で、この時期としてはまとまった雨となり、大竹で55mmの雨を観測した他、県内で20~45mmの雨となった。中頃は、一時的に高気圧に覆われて晴れた。終わり頃は、気圧の谷が東に抜けた後、強い冬型の気圧配置となった影響で、30日から31日にかけて山地を中心に大雪となった。最深積雪は31日に高野で79cm、八幡で54cm、大朝で37cmを観測した。

月平均気温は、三入で平年並、その他は平年より高いか、かなり高かった。

月降水量は、各地で平年よりかなり多かった。